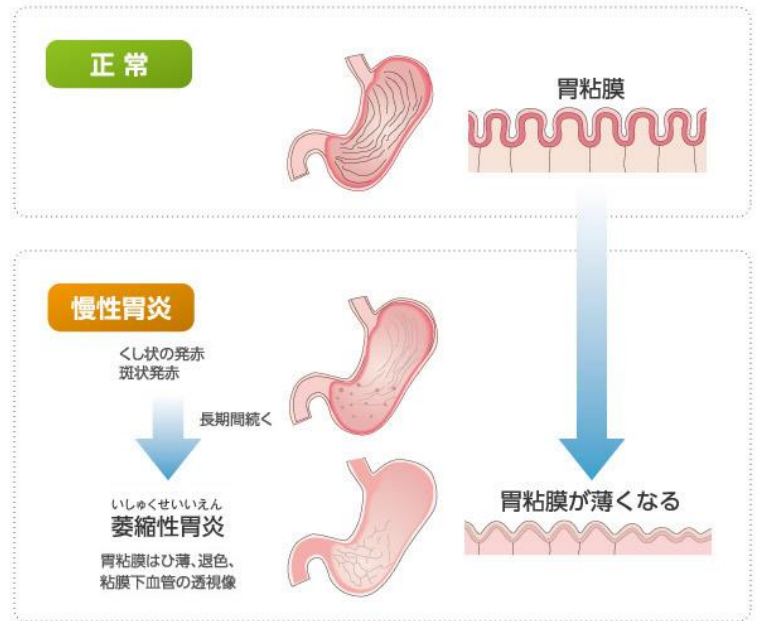




萎縮性胃炎とは

萎縮性胃炎とは、長年にわたって**胃の粘膜に炎症が起こること**（慢性胃炎）で、胃液や胃酸などを分泌する組織が縮小し、**胃の粘膜が萎縮した状態**です。

萎縮性胃炎が進むと、胃の粘膜は腸の粘膜のようになり（腸上皮化生）、さらに胃がんにまで発展してしまう恐れがあります。



加藤真吾 他：消化器疾患ビジュアルブック（落合慈之 監修）p.57, 2009（学研メディカル秀潤社）より改変

出典：武田薬品工業株式会社 ピロリ菌のお話.jp

(URL: <http://www.pylori-story.jp/disease/disease/gastritis/>)

症状

萎縮性胃炎になると、胃液が十分に分泌されないため、食欲不振や胃もたれなどの症状があらわれることがあります。その他、胃痛、胃部膨満感、げっぷなどの症状などです。

原因

炎症の原因として最も多いのは、**ピロリ菌による感染**です。免疫異常により、胃の粘膜に炎症が生じる場合もあります。

治療

ピロリ菌の除菌が主な治療です。



ピロリ菌治療

ピロリ菌の除菌（1次除菌）には、2種類の抗生物質（アモキシシリンとクラリスロマイシン）と酸分泌抑制薬（プロトンポンプ阻害剤）が用いられます。これらを1日2回朝・夕食後に7日間内服することで、約9割の方が除菌に成功します。除菌が不成功となる最大の理由は、ピロリ菌がクラリスロマイシンに耐性を獲得していること（薬が効かなくなり、同じ効果を得るのに薬の量を増やさないといけない状態）ですので、2回目の除菌（2次除菌）の際には、クラリスロマイシンを別の薬に変更して7日間内服すると、さらに9割の方が除菌に成功します。

つまり、2次除菌まで行えば、95%以上の方が除菌に成功することになります。なお、2次除菌までは健康保険適応ですが、3次除菌以降は自費による診療となります。

除菌治療の副作用

- 1] 下痢・軟便・・・最も多い副作用で、軽い症状を含むと約 10～30%の方に生じます。腸内細菌のバランスが崩れるためであり、予防に整腸薬の併用が有効です。
- 2] 味覚異常・・・苦みや金属のような味と感じる方が5%ほどみられます。
- 3] 薬疹・・・クラリスロマイシンのために皮膚に赤みや湿疹が出る方が2%ほどみられます。主にペニシリン・アレルギーです。

その他、血便、発熱、ひどい皮疹が出現した場合は、アレルギー反応や抗生物質が原因の腸炎と考えられますので、内服を直ちに中止し処方医へご相談ください。

また、ペニシリン・アレルギーの方は特別な処方での治療をおこないます。

除菌治療の成否判定

除菌治療が終了してから、もう一つ大切なことがあります。除菌が成功したかどうかの判定をきちんと行うことです。除菌治療終了して少なくとも4週間以上経過した後に、除菌の成否を判定します。除菌判定は確実性が求められるため、尿素呼気試験が最も適しているとされています。当院では偽陰性を防ぐため、除菌判定を除菌終了3か月後に行っております。

除菌治療後の注意点

ピロリ菌除菌に成功した場合でも、しばらくの間は胃内視鏡検査を定期的に受けることが重要です。除菌に成功したから胃がんにならないということではなく、胃がんのリスクを半分に下げただけですので、除菌成功後もしっかりと内視鏡検査を継続してください。

<ピロリ菌外来のお知らせ>

早期胃癌検診協会附属茅場町クリニックではピロリ菌専門外来を設置しております。

保険診療で行う通常のピロリ菌検査や除菌治療は一般外来も行いますが、下記のような特別な対応や相談が必要な方々のための専門外来です。

1. 3次除菌など自費診療による除菌治療を希望する方
2. ペニシリン・アレルギーなど特別な処方が必要な方
3. ピロリ菌治療について特に相談を希望される方

ピロリ菌外来 **予約制です。事前に予約をお願いします。**

外来のご予約は、Tel. 03-3668-6800 へご連絡ください。

健康診断のご予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局
Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp